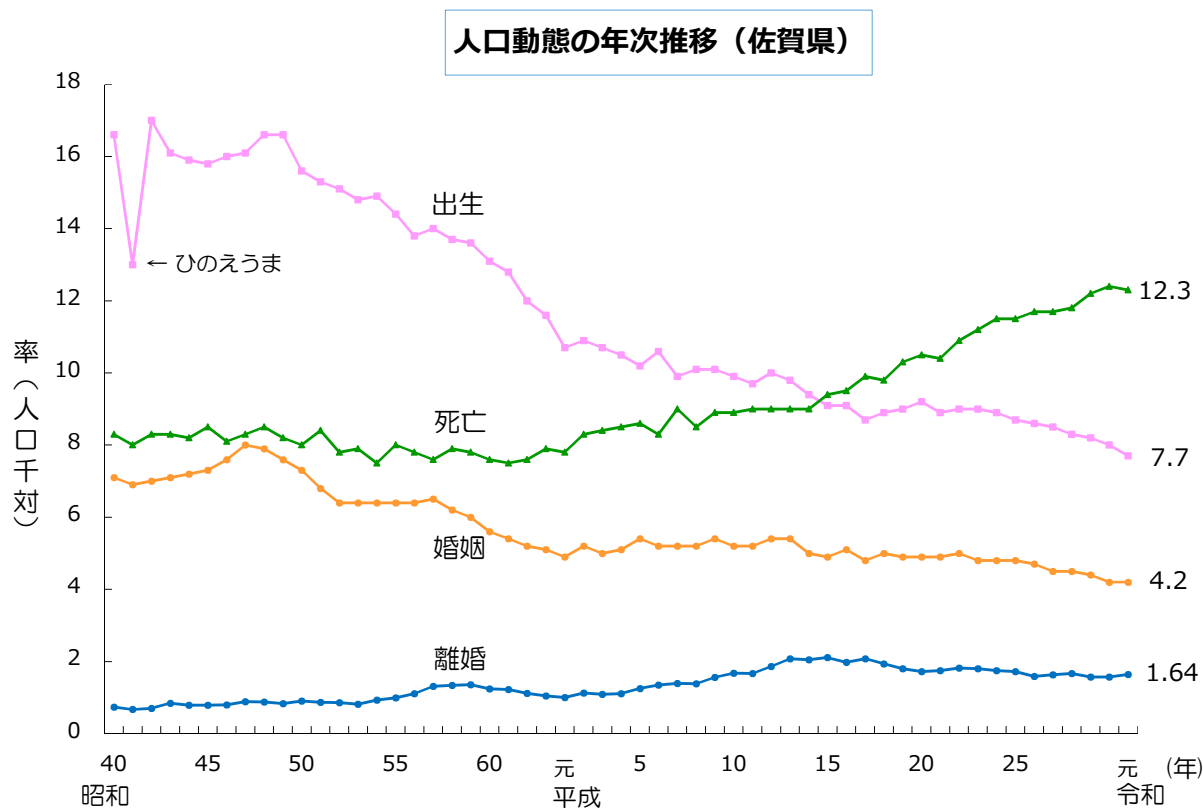


令和元年 人口動態統計月報年計（概数）の概況 - 佐賀県 -



目 次

結果の概要

人口動態総覧	1
1 出生数	2
2 合計特殊出生率	2
3 死亡数	3
4 死因順位	4
5 自然増減数	5
6 死産数	5
7 婚姻件数	5
8 離婚件数	5

統計表

第1表 主な死因別、悪性新生物の主な部位別死亡数・死亡率	6
第2表 選択死因死亡数・死亡率	7
第3表 死因別死亡数・死亡率	8
第4表 三大死因死亡数、性・年齢階級別	9
第5表 乳児死亡数、新生児死亡数	11
（参考）合計特殊出生率について	12

	実数				率				全国順位		令和元年 平均発生 間隔			
	令和 元年	平成 30年	増減	対前 年比 (30年=100)	佐賀県		全国		令和 元年	平成 30年				
					令和 元年	平成 30年	令和 元年	平成 30年						
出生	6 231	6 535	304	95.3	7.7	8.0	7.0	7.4	4	7	時	分	秒	
死亡	9 967	10 112	145	98.6	12.3	12.4	11.2	11.0	25	21	0	52	44	
乳児死亡	15	6	9	250.0	2.4	0.9	1.9	1.9	8	46	584	0	0	
新生児死亡	6	-	6	-	1.0	-	0.9	0.9	15	47	1 460	0	0	
自然増減	3 736	3 577	159	104.4	4.6	4.4	4.2	3.6	16	19			...	
死産	125	142	17	88.0	19.7	21.3	22.0	20.9	37	19	70	4	48	
自然死産	69	62	7	111.3	10.9	9.3	10.2	9.9	16	39	126	57	23	
人工死産	56	80	24	70.0	8.8	12.0	11.8	11.0	43	10	156	25	43	
周産期死亡	21	12	9	175.0	3.4	1.8	3.4	3.3	25	46	417	8	34	
妊娠満22週 以後の死産	18	12	6	150.0	2.9	1.8	2.7	2.6	16	42	486	40	0	
早期 新生児死亡	3	-	3	-	0.5	-	0.7	0.7	36	47	2 920	0	0	
婚姻	3 394	3 449	55	98.4	4.2	4.2	4.8	4.7	31	30	2	34	52	
離婚	1 329	1 280	49	103.8	1.64	1.57	1.69	1.68	23	33	6	35	29	
合計特殊 出生率	1.64	1.64	1.36	1.42	5	8				
生活習慣病死亡	悪性新生物	2 721	2 767	46	98.3	336.8	340.3	304.2	300.7	18	12			
	心疾患	1 394	1 371	23	101.7	172.5	168.6	167.8	167.6	36	36			
	脳血管疾患	771	855	84	90.2	95.4	105.2	86.1	87.1	26	19			

(注) 1 比率算出に用いた人口

平成30年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局「人口推計」)

令和元年10月1日現在推計人口(日本人人口)

(総務省統計局「人口推計」)

佐賀県 813,000 人

全国 124,218,285 人

佐賀県 808,000 人

全国 123,731,176 人

2 率は、出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡は出生千対、死産は出産(出生+死産)千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対、生活習慣病死亡は人口10万対である。

3 合計特殊出生率とは、「15~49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

4 全国順位は高率順位である。なお、同率であった場合、令和元年は概数値であるため、表示桁数により、また、平成30年は確定値であるため、表示以下桁数により順位を付している。

1 出生数は減少

出生数は6,231人で、前年の6,535人より304人減少し、出生率(人口千対)は7.7で前年の8.0を0.3ポイント下回った。

出生数を母の年齢階級(5歳階級)別に見ると、30~34歳が2,163人で前年に引き続き最も多かった。また、すべての階級において前年より減少した。

母の年齢階級別出生数

佐賀県

母の年齢	出生数				対前年増減		
	令和元年	平成30年	平成29年	平成28年	(元年-30)年	(30-29)年	(29-28)年
総数	6 231	6 535	6 743	6 811	304	208	68
~14歳	-	-	-	-	-	-	-
15~19	69	87	90	92	18	3	2
20~24	728	743	789	800	15	46	11
25~29	1 710	1 785	1 856	1 939	75	71	83
30~34	2 163	2 252	2 384	2 336	89	132	48
35~39	1 266	1 355	1 328	1 346	89	27	18
40~44	293	303	293	297	10	10	4
45~49	2	9	3	1	7	6	2

2 合計特殊出生率は横ばい

合計特殊出生率は1.64であり、3年連続で横ばいとなった。

都道府県別にみると、令和元年は沖縄県、宮崎県、島根県、長崎県、に次いで全国第5位となり、平成30年の8位より順位が上がった。

合計特殊出生率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年
佐賀県	1.95	1.75	1.64	1.67	1.48	1.61	1.64	1.63	1.64	1.64	1.64
全国	1.76	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36

注：合計特殊出生率は、「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。

3 死亡数は減少

死亡数は9,967人で前年の10,112人より145人減少し、死亡率（人口千対）は12.3で、前年の12.4を0.1ポイント下回った。

死亡数を年齢（5歳階級）別にみると、下表のとおり75歳以上で突出しており全体の78.3%を占め、65歳以上を含めると全体の91.8%を占めている。

また、本県の死亡率はいずれの年も全国平均をかなり上回っているが、基準人口に全国の人口を使用した年齢調整死亡率で比べてみると全国の死亡率とほぼ同じことから、本県の死亡率が高いのは高齢人口の割合が高いことによるものと思われる。

年齢（5歳階級）別にみた死亡数・死亡率・死亡割合

佐賀県

年齢階級	死亡数			死亡率			死亡割合	
				人口千対		対前年増減		
	令和元年	平成30年	対前年増減	令和元年	平成30年		令和元年	平成30年
	人	人	人				%	%
総数	9 967	10 112	145	12.3	12.4	0.1	100.0	100.0
0～4歳	18	10	8	0.5	0.3	0.2	0.2	0.1
5～9	3	3	0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
10～14	7	5	2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0
15～19	5	6	1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
20～24	17	16	1	0.5	0.5	0.0	0.2	0.2
25～29	16	18	2	0.5	0.5	0.0	0.2	0.2
30～34	24	21	3	0.6	0.5	0.1	0.2	0.2
35～39	16	23	7	0.3	0.5	0.1	0.2	0.2
40～44	45	55	10	0.9	1.1	0.2	0.5	0.5
45～49	85	106	21	1.6	2.1	0.4	0.9	1.0
50～54	108	111	3	2.2	2.3	0.1	1.1	1.1
55～59	186	201	15	3.7	3.9	0.2	1.9	2.0
60～64	285	301	16	5.1	5.3	0.2	2.9	3.0
65～69	592	631	39	9.3	9.4	0.2	5.9	6.2
70～74	757	682	75	13.9	13.6	0.3	7.6	6.7
75～79	979	1 011	32	22.4	23.7	1.3	9.8	10.0
80～84	1 471	1 567	96	41.2	43.0	1.8	14.8	15.5
85～89	1 990	2 201	211	73.0	81.4	8.4	20.0	21.8
90歳以上	3 363	3 144	219	171.6	168.1	3.4	33.7	31.1

死亡率の年次推移

	昭和60年	平成2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和元年
佐賀県	7.6	8.3	9.0	9.0	9.9	10.9	11.7	11.8	12.2	12.4	12.3
全国	6.3	6.7	7.4	7.7	8.6	9.5	10.3	10.5	10.8	11.0	11.2
年齢調整死亡率	6.2	6.8	7.5	7.7	8.5	9.4	10.3	10.4	10.8	11.1	11.0

年齢調整死亡率とは人口構成の異なる集団での死亡率を比較するために、一定の基準人口にあてはめて調整した死亡率のことをいう。

注：死亡率の分母に用いた人口

国勢調査年：「国勢調査」（総務省統計局）

それ以外の年：「人口推計」（総務省統計局）、「推計人口」（県統計分析課）

注：率及び割合は小数点第5位まで算出し、端数処理後の小数点第1位までを表示している。

4 死因順位は悪性新生物が1位

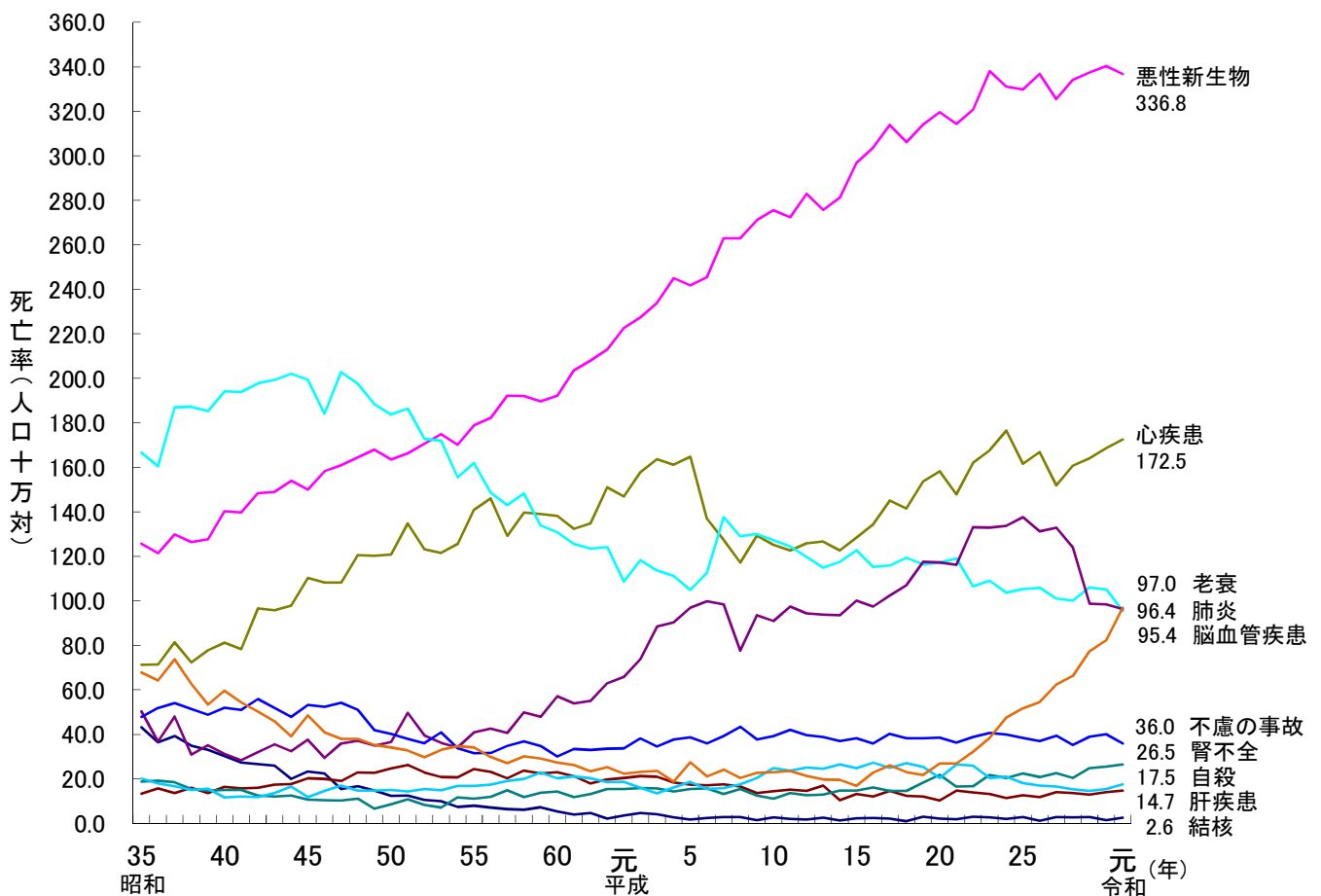
主な死因別、悪性新生物の部位別死亡数・死亡率について、前年と比較すると第1表（統計表）のとおりである。

死因順位の第1位は悪性新生物で、昭和53年以降42年連続第1位であり、全死亡者に占める割合も27.3%で、全死亡者のおよそ3.7人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

主な死因の死亡率は、上位から「悪性新生物」「心疾患」「老衰」「肺炎」「脳血管疾患」の順となった。

また、悪性新生物の主な部位別死亡数は「気管、気管支及び肺」「胃」「膵」の順で多く、前年と比較すると「気管、気管支及び肺」「肝及び肝内胆管」「胆のう及びその他の胆道」「胃」等は減少しているが、「膵」「卵巣」「膀胱」「前立腺」等で増加している。

主な死因別にみた死亡率の推移



注 1) 「誤嚥性肺炎」は平成29年より死因順位に用いる分類項目に追加された。

注 2) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10 (2013年版) (平成29年1月適用) による原死因選択ルールの特長によるものと考えられる。

5 自然増減数は減少

出生と死亡の差である自然増減数は 3,736人で、前年の 3,577人より159人減少し、自然増減率（人口千対）は 4.6で、平成15年から17年連続でマイナスとなった。

6 死産数は減少

死産数は125胎で、前年の142胎より17胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は、19.7で、前年の21.3より1.6ポイント下回った。

7 婚姻件数は減少

婚姻件数は3,394組で、前年の3,449組より55組減少し、婚姻率（人口千対）は、4.2で、前年も同数であり横ばいとなった。

平均初婚年齢（各届出年に結婚生活に入ったもの）は、夫は30.4歳で前年より0.2歳高くなり、妻は29.0歳で前年より0.1歳高くなった。

平均初婚年齢の年次推移

		昭和 60年	平成 2年	7年	12年	17年	22年	27年	28年	29年	30年	令和 元年
佐賀県	夫	27.9	28.4	28.4	28.0	29.0	29.6	30.2	30.2	29.9	30.2	30.4
	妻	25.5	25.9	26.3	26.5	27.4	28.2	28.9	28.8	28.6	28.9	29.0
全 国	夫	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1	31.1	31.1	31.2
	妻	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.4	29.4	29.6

8 離婚件数は増加

離婚件数は1,329組で、前年の1,280組より49組増加し、離婚率（人口千対）は1.64前年の1.57より0.07ポイント高くなった。